

日本の学童ほいく

みんなで読もう
目標
3万8000部

全国学童保育連絡協議会

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

普及拡大 ニュース

2021年7月29日

元気になる
みんなの取り組みを
ご紹介

地域での普及拡大の取り組み

「ほいく誌」を活用した学習とモニターの取り組み！

神戸市の指導員会では毎月一回「ほいく誌」の読みあわせをしています。その月に担当した指導員が、読みあわせる箇所やテーマを決め、自分の保育に引き寄せて、意見を出しあったりと、「ほいく誌」を使って指導員みんなで学習しています。

また、毎月一回の指導員会のなかでは、モニター通信を書く時間を設けています。誌面への感想や意見を寄せるとともに、保護者への「ほいく誌」のアピール、普及拡大につながればと思います。リモートでの会議になってからも時間を設けて、指導員みんなでモニター通信の投稿をがんばっています！！

兵庫
の
取り組み

普及拡大ニュースの発行を毎月発行し続けて二十年余り！

石川県連協では、普及拡大ニュース『いま 日本の学童ほいくがおもしろい』を毎月発行し、全世帯に配っています。B4サイズの両面で作成しており、2021年7月号で268号の発行になりました。ニュースでは、石川県の方が掲載されているページや、今月号のおすすめページを紹介しています。また、各地域や指導員会、クラブで開催された読者会の感想や思いなども紹介しています。

石川県では全員購読が定着していますが、読まずに廃棄しているとの声を聞くことができました。せっかくのよい本をもったいない、読むきっかけになれば……との思いで読書会の取り組みを行っています。

石川
の
取り組み

オンライン読書会「ほいく誌カフェ」で、ほいく誌の魅力にふれる一時！

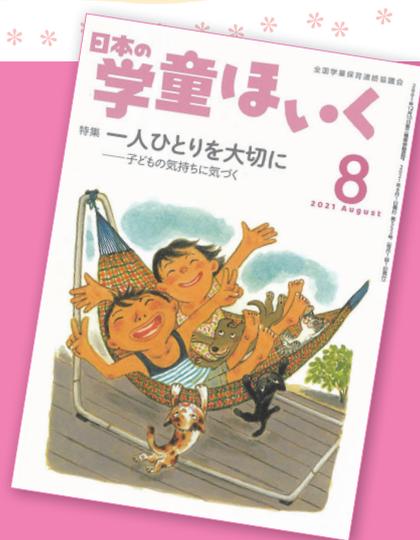
毎月の最終土曜日の夜8時半に読書会「ほいく誌カフェ in 埼玉」をオンラインで開催しています。パソコンやスマホの前に月刊『日本の学童ほいく』を広げ、特集記事を中心に、マスターの合図で参加者がつぎつぎと誌面を音読していきます。時に記事の執筆者をお招きし、エピソードをうかがうことも楽しみの一つです。皆さんの朗読を聴きながら順番が来たら音読。上手下手もなくてただ読むだけですが、人の声で聴く（読む）「ほいく誌」に安らぎを感じる不思議な時間です。

埼玉
の
取り組み

日本の学童ほいく 8月号

特集 一人ひとりを大切に ——子どもの気持ちに気づく

さまざまな経験を通じて、他者との関わりを学んでいく児童期の子どもたち。今回の特集では、一人ひとりの子どもの言動やその背景にいていねいに目を向けること、気持ちに気づけるよう努力すること、そのことを通じて、共に信頼関係を築いていくことの大切さを学びあいます。



日本の学童ほいく

みんなで読もう目標 3万8000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

普及拡大 ニュース

2021年7月29日



読者の声

岩手県大船渡市 ● 保護者から

杉田真衣先生の講座「子どもと共にいまを生きる」を興味深く拝読しました。

なかなか先が見えない世の中で、今後、必要なことを子どもたちへどのように伝えていくかは常に大きな課題だと思います。

保育園のときは同じ年頃の子と仲よく遊べるか。小学生になり、子どもたちの社会のなかで自分を見失わないでいられるか。

子どもの社会が広がるたびに、さまざまな年齢層の人とコミュニケーションを図ることが必要とされてきます。同じ事柄でも、ことは、言い方、タイミングなど考えて発言しなければなりません。

学生時代は、先生や長く時間を共にしている友達など、比較的自分のことをわかってくれる人とのコミュニケーションが中心でしたが、社会に出るとそうはいきません。そんなとき大切になるのが、小さい頃のコミュニケーションの経験だと思いました。

家庭、学校、学童保育など、自分の居場所で、心おきなく意見を言える、言いあえる仲間がいるということが、大切だと思います。

感染防止のため、学童保育でのおやつも黙食しなければならない時期です。子どもたちがちょっとした話で共感しあい、笑いあえる日が早く来ることを願っています。

(『日本の学童ほいく』2021年7月号「読者のひろば」より)



読書が趣味の私は、私の五感に引っかかる目新しい本があれば読むという日々を小学生のときからおくっていました。子どもが保育所に入り、『ちいさいなかま』(全国保育団体連絡会編集の雑誌)を勧められるままに読んでいたので、学童保育に通うようになると『おおきなかま』があるのかなと思っていました。ところが、待っていたのは『日本の学童ほいく』。なんと直球なタイトルだろうとビックリしたことを覚えています。

我が子は公設公営(当時、保育料無料)で保護者会は保護者のみで開催するという学童保育に通所していたので、『日本の学童ほいく』の内容は、私には非現実的な話にしか思えませんでした。「しかし、他に学童保育に関する本はないし……フィクションと思えばよいか」と思って読んでいたのが、最初の3年でした。公設公営の学童保育は3年生までだったので、4年目から民設民営の学童保育に長女が通所をはじめ(次女は公設公営へ通いました)、『日本の学童ほいく』の内容が実感として伝わってくるようになりました。「なるほど」と思うこともあれば、「全然違う。学童保育って様々だなあ」と思うことも。今は学童保育が様々なように『日本の学童ほいく』の内容(学童保育実践・施策)も様々なことがわかる雑誌だと思って読んでいます(「簡単レシピ」など、息が抜けるページもあり、読み物としても楽しんでいます)。

私と「ほいく誌」

全国連協役員リレー執筆・今月は愛知県 賀屋哲男さん